

委員名	意見
委員 A	〈目指すまちについて〉 ・安全で安心な農畜産物を安定的に供給できる、持続可能な地域農業が確立されているまち。
委員 B	〈スポーツを通じたまちづくりについて〉 ・地域の活性化と市民の健康増進を目的として、最新のスポーツ施設や公園の整備に力を入れてはどうか。 全天候型のスポーツドームや多目的運動場の建設、新たなトレーニングジムの設置なども含む。 ・豊かな自然環境を活かして、スポーツイベントを通じた観光誘致を積極的に行ってはどうか。 例えば、クロスカントリー大会、サイクリングイベント、トレイルランニングの大会などを定期的に開催するようにするなど。 ・地域住民の交流と健康増進を目的とした各種スポーツクラブを育成する必要があると思う。 これにより、子どもから高齢者までが参加できる多様なスポーツプログラムが提供され、住民の健康管理や体力向上を図ることができる。 ・AIによるパフォーマンス分析、ウェアラブルデバイスによる健康管理やVRを活用したトレーニングなどが普及することを見据え、市民が個々のニーズに合ったスポーツ活動を行える環境を整える必要があると思う。
委員 C	〈目指すまちについて〉 ・ひと（特に子ども・高齢者）に優しく、安心して暮らせるまち。 ・新事業の開発による若者の働く場と居場所のできるまち。 ・まちの特徴を生かした観光・農業の事業拡大が可能なまち ・環境が整備された美しいまち。 ・子どもの特徴・能力が発揮できるまち。 〈そのために行うべき取組について〉 ・災害に強く、安全で安心して暮らせるまちづくり。 ・農業の企業化促進と地域としてのブランド品の開発。 そのためには、後継者が希望のもてる職場づくり、荒廃農地の再農地化、特産品としての新しい物産の開発を促進してはどうか。 ・文化についての情報発信の強化と新しい文化都市づくり。 そのためにも、歴史・文化の情報発信を強化し、市民及び観光客誘致の強化を図ること、食育文化の構築を図り、農業及び観光業に貢献できる仕組みをつくること、小学生くらいまでを対象としてスポーツ・文化（将棋・碁・音楽など）の特殊文化都市づくりの構築を図り、まち紹介に活用することはどうか。 ・産業間の打合せ会の強化を図り、新事業の創出によるまちおこし。 例えば、農業と宿泊業を結び付けることによるお互いの活性化を図ったり、旅行スタイルの変化やレジャーの多様化についての勉強会を行ってはどうか。 ・医療機関との関係強化と、老人の医療機関見直し（機関数・人員数）の再構築。

令和6年度 第1回 伊豆の国市総合計画審議会
未来の伊豆の国市について 意見一覧

委員D	〈目指すまちについて〉 ・心も身体も健康でいられるまちを維持し続けられたら良いのではないかな。
委員E	〈目指すまちとそのために行うべき取組について〉 ・災害に強いまちづくりの推進が重要であり、道路整備が必要と考える。 ・災害時に道路が早く復旧できれば、車両が通ることができ、水道や電気の復旧が早く進み、被災地の復旧も早まると思う。
委員F	〈目指すまちについて〉 ・公共交通（電車の駅やバス）が利用しやすい、移動しやすいまち。 ・スーパーマーケット（アピタ等）があり、買い物がしやすいまち。 ・山と川等、身近に豊かな自然があるまち。 ・温泉による癒しがあるまち。 ・祭りなど、故郷を意識できるモノがある（ふるさと感）まち。 ・病院（医療機関）・福祉サービス事業所があり、安心できるまち。 ・望まない孤立・孤独を抱える人の拠り所となる居場所（気軽に集える場）があるまち。 〈どんなふうにまちを発展させていきたいかについて〉 ・災害に強く、安心して生活できるまちにする。 ・身近に仕事がある、身近で仕事ができるまちにする。 ・医療と福祉のセーフティネットがしっかり機能していて、安心できるまちにする。 ・海（東海岸と西海岸）の幸、山の幸、川の幸が豊富にある、伊豆半島の食の宝庫としてのまちにする。 ・人やモノの流れの要衝（交通（交流）の要衝）を活かしたまちづくりを行う。 ・豊富な歴史資源を紐解き、伊豆の国市の地勢上のポテンシャルを再確認し、活用していく。
委員G	〈力を入れていくべき分野について〉 ・観光を中心とした考え方から脱却し、高齢化社会を見据え、「医療・福祉」と「癒し」をテーマにしたまちづくりを行ってはどうかな。 ・限られた財源を有効利用するため、伊豆長岡駅を中心とした菰山エリアから順天堂病院エリアまでを重点エリアとして、他エリアと分けけてまちづくりを行う発想も必要ではないかな。 ・順天堂病院エリアでは、旅館の跡地を利用したサービス付き高齢者住宅等の誘致なども、温泉利用と合わせ、有効と考える。 ・近年、防災の取組が増加しているが、いきなり現状を全て転換することは難しいので、観光と医療・福祉、観光と防災のように、観光をフックに展開し、最終的に安心・安全を連想させるまちづくりが肝要と考える。
委員H	〈地域経済の活性化によるまちづくりについて〉 ・地元企業が活性化することで、地域内で経済が循環する。就業者には地元に住んでもらい、安心して子育てができるようになれば、地元経済が発展し、若い世代とシニア世代が楽しく暮らすまちにつながる。

令和 6 年度 第 1 回 伊豆の国市総合計画審議会
未来の伊豆の国市について 意見一覧

委員 H	〈そのために行うべき取組について〉 ・市外への通勤者が多く、経済波及効果に乏しいため、特に、本社・本店・事業主が市内にある企業を育て、廃業させない支援をし、持続的に発展させていく必要がある。 ・また、その企業に、防災・災害支援や介護支援、地域での見守りを行ってもらう。 ・創業と事業継承の支援を行う。 ・超高齢化社会へ向けて、順天堂病院など医療関連の支援、陽伊豆る国構想の支援を行うことで、健康経営や健康寿命の延伸につなげ、シニア労働力を確保することができる。 ・健康づくりとスポーツを組み合わせ、観光振興にもつなげていく。 ・将来の担い手不足に対応するため、地域の担い手づくりとして、中学生を対象とした就業体験や、高校生に対する市内企業の紹介を行い、子どもたちが職業を知る機会を創出する。 ・企業の DX を推進し、省力化や生産性の向上、インフラの整備、人材の育成を支援する。
委員 I	〈目指すまちとそのために行うべき取組について〉 ・子どもが、将来帰りたくなり、自分の育ったまちで子育てをしたくなるまち。 具体的には、乳幼児期から児童期に、家族や友だちと、近所の公園など近所の大人が常に見守る安心感のある環境で、子ども同士が安全にのびのびと遊ぶことができるまち。 ・質の高い教育・保育が保障される、子育てをしたくなるまち。 そのためには、各機関の横断的な連携の強化と情報発信の強化が重要。 ・こども家庭庁「こどもまんなか社会」を実現し、子どもにとっていちばんの利益を考えるまち。
委員 J	〈力を入れていくべき分野について〉 ・少子高齢化が進み、買い物難民が増えていくことが予想されることから、ゾーン分けが必要だと思う。 ・長岡地域は観光中心、韮山地域は文化財・農業、大仁地域は商工業として市全体でまかなえるような施策ができればよいのではないか。 ・医療サービスはどこの市町にも負けないほど整っていると思うので、それらを活かしたまちづくりが必要だと思う。
委員 K	〈めざすまちについて〉 ・人とのつながりや結びつきを大切にするまち。 ・どの世代にも優しい伊豆の国市。 ・豊かな自然を最新の技術で守りながら、家庭・農業・観光・産業が循環し、市民でつくるまち。 ・伊豆の国市の良さを楽しめる市民を増やす。 ・元気な高齢者と子どもや若者との交流が活発になっているとよい。

令和 6 年度 第 1 回 伊豆の国市総合計画審議会
未来の伊豆の国市について 意見一覧

委員 L	〈力を入れていくべき取組について〉 ・人口減少が確定的な未来となっている今、社会基盤の維持や多様化した住民ニーズへの対応といった観点から、特に行政事務や行政サービスの提供等においては I C T を活用したプロセス変革（DX）は不可欠であり、推し進めるべき。 〈力を入れていくべき分野について〉 ・伊豆の国市は、歴史遺産、自然景観、温泉、農作物、首都圏との近接性等多くの魅力を有しているが、それゆえに政策の核とするポイントを絞りにくかったり、“伊豆の国市といえばこれ”というイメージを持たれにくかったりするのではないかな。 ・計画を踏まえた効果的な政策を打ち出すため、市民ニーズや実現性を勘案したうえで政策の核心に据える分野や方向性の定義が必要と考える。
委員 M	〈目指すまちとそのために行うべき取組について〉 ・市民の誰もが安心して暮らしていける伊豆の国市 ・そのためには、特別でない穏やかな日常を過ごせる生活環境の整備、未来を託す若者への人材育成、地域の魅力を知り、考え、地域力を高めるための若者を巻き込む「地域の活動への参加」が重要。 ・優先順位を念頭に置き、直面している身近な日常生活の困りごと（ごみ処理・新たな交通手段等）や子育て支援についても、あるべき姿を明確にし、未来につなげていく必要がある。
委員 N	〈目指すまちとそのために行うべき取組について〉 ・伊豆の国市は、県や周辺市町（美しい伊豆創造センター含む）との連携が進む観光面以外に、移住や防災対策など他分野でも、今以上に協業と効率化について周辺市町に能動的に働きかけを実行し、「伊豆の中心・伊豆のハブ」として人々がシビックプライドを持っているまちになってほしい。